

+幸せを探すあなたへ

運命の始まり & 運命からの脱出

* 運命ならば仕方ないのではないですか 現場で聞くようになった一人の話に、人間の運命に対して、もう一度、考えさせられました。

きれいな1人の女性が、黒く長い髪の毛を、ほとんど素肌があらわれた肩と背中に流れるようにおろして、私のそばをさけて座っていた。「きれいですね」あっ、はい...」よく聞いてきた話なのか、これといった関心なく、その美女は、腕の運動だけ続けていた。「でも...、きれいだからといって、自分の人生を思うように生きることができるのではないでしょう」思いのほか、返事がはやく、そして、真剣に返ってきた。「そうです。みな運命でしょう。運命ならば、仕方ないのではないですか」その女性の人生ストーリーはこのようだった。信仰が篤い仏教信者である彼女のお母さんは、寺で供養して、修養する人であったのに、有名な大きいムダン（霊媒師）の息子と相性が合うと、突然に結婚させられた。彼女の夫になった息子は、非の打ちどころがない優しい性格で、何の不便なく過ごせる職場もあったということだ。初めての息子が三、四才ぐらいになった時、職場から戻った夫は、突然、野獣のように急変して、手当たりしだい殴って壊して、息子は蹴とばされ、自分はほとんど息ができないほど殴り倒されたのだ。それ以後、暴力は毎日、必ず受けなければならない、当然の日課になって、さらにあきれること、死ねと殴ってあざになった傷を触りながら、ワンワン泣いて、また目が変わって、激しく大声で怒鳴りまくるので、そのようにして三年を越して、疲れるだけ疲れてしまったのだ。結局、ムダン（霊媒師）である姑が言うことは「もうだめだよ。私が祈ってみたら、私たちの家系の先祖の悪霊が、ものすごく大きい刃物をたくさん持って、あなたたち二人をバッサ、バッサと切りまくるので、私の力では何もできないよ。事態がこのようになったから、あなたがた二人が別れるのが、私たちの先祖の志なのだろう」結局、大切な息子まで奪われて追い出されるように離婚したということだった。さらに感謝料まで正しくもらえず、食べるために罪であると知りながらも働いていたら、健康が壊れて、今は唯一、残った元手である顔を売って生きていると言った。

はたして、人間は運命のとおり生きなければならないのでしょうか。このような女性の運命が変わって、最も幸せな生活を送るようになったとすればどう思いますか。

* 運命の始まり&運命からの脱出 神様のみことばである聖書は、人間がいつから運命や生年月日による運勢に陥るようになったのか、運命をもたらしている張本人が誰なのかに関して、確かに知らせています。神様が世の中を創造された時、一つの原理を持って造られたのですが、魚は水の中で、鳥は空で、木は地に根をおろして生きるようにされたのです。そして、人間は神様のかたちに、神様とともにいる霊的な存在として創造されました。ところで、エデンの園で最初人間であるアダムとエバが、サタンのうそにだまされて、神様との



約束を破って、神様を離れて、サタンの手に捕まるようになったのです。この時から、人間の運命は、奴隷の家で生まれた子孫が、全部、奴隷になるように、呪いと災いに陥るようになって、親がいない子どものように、不幸な生活を送るようになりしました。人間に運命と生年月日による運勢をもたらして、不幸な生活を送るようにさせる張本人が、まさにサタン、あるいは悪魔という目に見えない霊的な存在です。このサタンは、いつも悪霊を働かせながら、人間が世の中の風習（運命、生年月日による運勢、迷信、お祓い、占い）に従って、偶像崇拜、精神問題、肉体問題、家庭と子ども問題、来世の問題に陥って、不幸な人生を生きていくようにさせています。それなら、人間が生年月日による運勢、運命から抜け出して、真の幸せ、真の自由、真の救いを得る道はないのでしょうか。神様に会う道、罪と呪いの問題が解決される道、サタンの運命から抜け出す道であるキリスト(Christ)、その方がまさにイエス(Jesus)なのです。

「こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなたを解放したからです」(ローマ人への手紙 8:1~2)

長老伝道企画時代

奇跡の始まり - ひとり

デパート王ジョン・ワナメーカー アメリカの郵政長官をつとめ、生涯、教会学校に仕えたデパート王、ジョン・ワナメーカーの幼い時にあった話です。ジョンが通っていた小さい田舎の教会は、広場が土になっていて、雨が降れば、泥沼になるのが常でした。大部分の信徒が貧しかったために、事実、誰も教会堂の中を泥まみれにしてしまうその広場に手を加える意欲がなくて、不平だけ言うのが現実でした。ところで、ある日から、教会の広場にレンガが何個かずつ敷かれ始めたのです。初めには、だれも関心を持たなかったのですが、少しずつ少しずつ、レンガが増えるのを見ながら、気にするようになっていったのですが、誰がするかは誰も知らずにいました。ある日の明け方、牧師が教会の後方に隠れて誰かを待っていました。それは、教会の広場にレンガを敷く主人公を知るためでした。明るくなってきたときに、一人の子どもが、レンガを積んだ手押し車を引いて広場に入るのを見て、牧師はびっくりしました。レンガをおろして広場に敷く子どもは、まさに教会学校の生徒だったジョン・ワナメーカーだったのです。ジョンは、幼い時からレンガ工場をするお父さんの仕事の手伝いをして、それで少しだけおこずかいをもらっていました。ところで、雨が降るときはめちゃくちゃになってしまう教会堂の中と不平を言う人々を見ながら、教会の広場にレンガを敷かなければならないと思ったのです。お父さんの仕事の手伝いをしてもらうおこずかいの代わりにレンガをもらって、誰にも分からないように、教会広場に敷くようになったのです。その日、牧師は説教の中にレンガを敷いたワナメーカーの話をしました。すべての信徒がびっくりしながら、感動して、一つになりました。結局、広場にレンガを敷くだけではなく、古くなった教会の建物も修理して、新しい屋根にするようになりました。教会学校のひとりの子どもの信仰と献身が、教会の現場を変えたのです。みんな現実に安住して、不平だけ言っているのに、ひとりの子どもの小さい開始が、美しい結果を作り出したのです。

重職者ひとり こういう子どものような中心が重職者の自尊心で、重職者の真の開始ではないでしょうか。「これが福音だな！これが祈りだな！これが伝道だな！これがみことばの成就なんだな！これが聖霊の導きだな！」ということを見せられる重職者ひとは、すべてを生かします。「さて、ダマスコにアナニヤという弟子がいた…」(使徒の働き 9:10)

神様の子どもになる
受け入れの祈り

愛の神様、私は罪人です。イエス様が十字架で死んで、復活されることによって、私のすべての問題を解決してくださったキリストであることを信じます。今、私の心の扉を開いて、イエス様を私の救い主として受け入れます。今、私の心の中に来てくださって、私の主人になって、私を導いてください。これから、神様の子どもになった祝福を味わいながら生きるようにさせてください。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン



神様の子どもの五つの確信

救いの確信：イエス・キリストを信じて受け入れたあなたは、神様の子どもになって救いを受けました(ローマ 8:15~16、Iヨハネ 5:10~13)

祈り答えの確信：神様の子どもはイエス・キリストのお名前でも何でも求めることができ、神様はみこころ通りに必ず答えてくださいます(ヨハネ 15:7)

導きの確信：神様は聖霊であなたの中におられ、あなたのすべての人生を治めながら導かれます(ヨハネ 14:26~27、箴言 3:5~6)

救しの確信：あなたのすべての罪はイエス・キリストのあがないの血の力で解決され、神様はだれでも罪を悔い改めれば許して下さいます(Iヨハネ 1:9、ローマ 3:24)

勝利の確信：救われたあなたは、世の中に勝たれたイエス・キリストによって、どんな問題の中でも信仰で勝利することができます(ローマ 8:31~37、Iヨハネ 5:4)



神様の子どもの毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。

今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。

私の家庭と現場と行くところごとに、福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。

私の生活を通して、イエス様がキリストであるということがあかしされるようにして、私の現場に神の国が臨むようにしてください。

毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。

今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

信じれば 神様の栄光を見るようになります！

理由を知って門を見るべきです イスラエルの歴史は苦難の歴史でした。ヨセフがエジプトの総理になった後、ヨセフを知らない王が起きて、イスラエルは奴隷に転落しました。出エジプト以後、続くペリシテとの戦争、バビロン捕囚、アッシリヤによる滅亡、ローマの属国、同じくローマの支配、ペルシヤの侵入、アラブ族による征服、ヒトラーによる600万ユダヤ人の虐殺、英国の統治が終わって1948年独立する時まで苦難が続きました。なぜそうだったのでしょうか。イスラエルが、神様がくださった自分のアイデンティティー、福音、ビジョンをのがす時ごとに苦難が訪ねてきたのでした。福音運動は、この苦難の歴史が反復しないように防ぐことで、世の中を生かすことです。この伝道運動の最も重要な部分があります。使徒の働き2章を見れば、多くの人が集まったようですが、実際には15ヶ国の門(使徒2:9~11)を見たのです。そして、現場の3千人の弟子を(41節)見ました。いよいよ神殿の美しの門でいつも見てきた足のきかない者に、何が足りないのか見るようになったのです(使徒3章)。パウロが伝道現場に行くとルデヤを見たのが重要なわけではありません。その現場を生かす門になる悪霊につかれた者を見るようになりました。テサロニケのヤソンが重要なのではなく、その地域を生かす会堂を見るようになりました。プリスカ夫婦に会ったのが重要なのではなく、コリントを生かす会堂が見え始めました。エペソに行ったのですが、その地域を生かすツラノが見え始めました。この門を見るのが伝道の最も重要な開始です。

正しい方法を理解しなければなりません 私たちがしている伝道運動は、聖書にあるマルコの屋上の間の運動です。当時、禁足令が出されていて、死刑宣告が下されていた死の威嚇の前で、初代教会でマルコの屋上の間に集まった人々は、どんな気持ちで集まって、どんな中心で働きをしたのでしょうか。それをしようということです。ただ福音(みことば)と祈りの中で、すべての一般信徒が恵みを受けて現場に入って行ったのです。伝道がなるしかないシステムを用意しました。それが弟子です。そして、24時祈る人々が中心を集めて聖霊の導きを受けていったのです。世界福音化される日まで、清潔な福音運動を持続するのが、私たちの未来です。それで私たちには四つのことがあります。他の動機、勘違いさせる神秘主義、人を批判する律法主義、計算したり恩着せがましくしたりしません。聖霊の内住を味わって、聖霊の導きを受けながら、聖霊に満たされる働きを体験するのが私たちの方法です。そのために、私たちは3つについて行きます。みことばが成就した通り、祈りの答えを受けたとおり、神様の計画(ピリピ1:9~10)を見てついて行くだけです。結局は、ただ福音、ただ伝道、これのために私たちの学業、産業、技能、すべての部分がただ唯一性の祝福の中に行くのです。

つぶやかずに祈れば良いのです 私たちの生活の中でいつも3つのことを見つけなければなりません。すべての事件、全てのこと、ある場合は良くないことを通しても、神様の答えを見つけなければなりません。そして、それにとまらぬみことばを握って、伝道の門を探さなければなりません。礼拝は「これが私への答えだな!これが神様が私にくださる力だな!神様が私の未来に向かってこれをくださるのだな!」ということを見つけることです。今から貧しいからと、問題がきたからと気をおとさずに、神様に祈れば良いのです。荒野を通り過ぎる間、色々な問題がないことがあるのでしょうか。どのように、世の中に生きていくのに安らかなだけでしょうか。しかし、重要なのは、神様は変わらないで答えられるという事実です。今日から祈りの答えを受ける祝福が始まることをイエス様の御名で祝福します。

説教_柳光洙牧師、整理_チャ・ドンホ牧師

毎日毎日の森の泉

25日(月)

神様の土台が私たちの土台(1歴代29:10~14)
神様の主権、歴史の主人公イエス・キリスト、聖霊の働き、神様の神殿である信徒、聖書の絶対的権威、信徒がいるすべての所が宣教地、神様は生死と災いと祝福を治める方、人間は時限つき人生、明らかな来世、伝道者の報い、これが私たちの土台です。

26日(火)

伝道者は最高の知識と戦略を持っている者です(コリント6:1~10)

祈りの課題、伝道方向、経済観、メッセージ、神様に栄光を帰す中心が通じる弟子が最高の伝道者で、福音と祈り、伝道をいつも考えるのが最高の戦略です。この時、神様の視線、神様の計画、神様の時刻表と道しるべの中にある生活を送るようになります。

27日(水)

神様の主権(1歴代29:10~14)

神様は天と地のすべての物を創造され、今でもそれを治めておられます。私たちが信仰ですべてを神様に任せる時、神様の働きは必ず始まります。私たちに本当に必要なことは百パーセントの信仰です。

28日(木)

イエス・キリストはだれなのか(エペソ3:1~12)

罪の問題、神様を離れた不信仰の問題、サタンの奴隷の役をする問題を解決された唯一の人生の問題の解答がキリストです。イエスがキリストで、復活され、今でも聖霊と一緒に働いておられることを信じて体験する時、伝道の門が開かれるようになります。

29日(金)

聖霊の働き(ヨハネ14:26~27)

信徒は、いつも聖霊の働きを体験して味わうべきです。救いの祝福を味わう聖霊の内住、信仰生活の祝福を味わう聖霊の導き、祈りの答えの祝福で世の中を征服する聖霊の働きは、祈りと福音(みことば)と伝道で体験することができます。

30日(土)

神様のみことば(ヘブル4:12~13)

聖書66巻が話す全体の主題は、救いと福音の根です。福音がなくなると福音が回復する時ごとに滅亡と祝福の歴史は反復しました。ますます福音が薄くなるこの世を変化させる唯一の道は、全世界の隅々で光を照らす真の福音(みことば)運動だけです。

週間メッセージ

産業宣教 | 産業人が味わって立てなければならぬ教会の力(使1:1)

伝道学 | 福音を味わうことから学ばなければならぬ(箴1:7、テモテ3:14-17)

核心訓練 | 伝道合宿(ローマ16:25-27)

聖日1部 | 主の栄光を見る(出16:1-12)

聖日2部 | 望みえないときに望みを抱いて信じました(ローマ4:17-25)

森には 悪霊がいる

人間の生活は森で始まった。森は生命力の象徴であるが、その森で、歌も作られて、夢も作られた。ところが、現代人にとって、森をのがして生きるということが、最も残念なことでもある。人間に良いものがあれば何でも奪い取ることを好きな存在があるけれど、それはサタンだ。ある放送プログラムに出てきたムダン（霊媒師）が「森には悪霊がいる」と言ったが、本当にそのとおりだと考えられる。ある者は、その話を聞いて、森に入るのが怖いと言ったが、当然、恐れなければならないと思う。

人々は、本来の性格がどのようなかという、真理よりは真理ではないほうに、正しい言葉よりは間違っただ話をさらに信頼する傾向がある。数多くの大衆が見るので、優雅な表現が必要なインターネット塾で、いろいろな悪い言葉が人気を呼んで、ある者はそれを便所文学（お手洗い文学でなく）と卑下するあきらめの文章も出ている。

この世には、悪霊がいるというよりは存在している。その悪霊の存在を事実として確認できる現場が、霊媒師の家で、その活動の周辺には悪霊が働いている。真理に鈍感な人々が、そのしわざに引っかかって、人生を担保に取られて苦労するのが、普通の人々の当然の苦しみだ。

こういう霊的事実を正確に明らかにするのは聖書(The Bible)しかない。耳に聞こえは良くなくても、聖書が話す真理は、すべての宗教は悪霊に仕えるということだ。したがって、悪霊に勝てる宗教は存在しない。悪霊が追い出されるように見えるのは、悪霊の策略で、上級の悪霊が下級の悪霊を追い出す秩序維持の次元で、正確に話せば宗教的ショーだ。悪霊は天の御座をうらやましがって、空中に追い出されたサタンが連れて出た天使の三分の一の群れだ。その悪霊が、この世でいろいろな世の中の汚らしくて苦しい事を作り出して、生きていくのが大変にさせている。全地のどこにも悪霊はいる。時間と空間を問わず活動できるので、ムダン（霊媒師）の話のように、森に悪霊がいるという言葉は、正しい言葉だ。それなら、この世はその前に身動きもできないという論理になる。

しかし、聖書は、サタンに従わない三分の二の天使が存在



イラスト_ユン：スルギ

すると言っている。森に一つの悪霊がいるならば、天使は二ついるという事実を知ることができる。人間が解決しにくいことを、悪霊が治めていると見るので、お祓いをする悪霊に苦しめられる人生は、真の真理の事実を知らないの、当然に受ける苦しみであることを分からなければならない。

聖書は、救われた者は、悪霊をはね除ける力があることを知らせている。森に悪霊がいて人々は恐れるが、信徒は倍の多くの天使の助けの中で、森で歌って夢を見られるのだ。森が恐ろしい人は、森の支配者が悪霊という不確かさを事実だと思って、悪霊を押している天使の存在を知らない人だ。

人々は自分の方式で表現するので、森に悪霊がいると誤って話したのだが、正確に表現すれば、「森には天使がいる」が正確な言葉だ。緑が深くなる五月の林の中で、天使に追われて尻ごみして逃げる悪霊の代りに歌う鳥の声と、香りを味わう天使の森にいっしょに行きませんか。

文_チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)

* 相談したい方はこちらまで連絡してください